

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和3年12月4日

公表: 令和4年1月25日

事業所名 チャイルドハート東海植田北

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		人数が多い場合は、公園に行くなど外出している。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレに手すりを設けている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		一日の大まかな流れを作り、支援後振り返りをし日々反省等を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		送迎時に意見を聞き、改善に向け職員間で共有を行っているが、アンケート調査は行っていない為、行っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在は事業所、利用者からのみの評価を行っているが、必要に応じて第三者評価を行うことを検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月本部研修を数回受け、職員間で情報共有している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		イベント運営は担当者を決め、それぞれが責任をもって取り組めるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		職員全員で話し合い、時と場合に応じて柔軟に対応できるよう情報共有を行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		普段できない屋外活動やお出かけを行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団活動、個別活動どちらもありのまま過ごせるよう、指導員を配置している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員の関わり方、利用児童の最近の様子などを共有し、支援の在り方を話し合っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		関わり方の反省や、良かった点などを話し合い、業務改善に努めている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		児童の様子だけでなく、気持ちや表情など記録の内容を細かく記載し、見直す事で振り返りを行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年、状況に応じて短期間で保護者、職員間でモニタリングを行なっている。	

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		関わりの深い指導員が参画し、他の職員にも聞き取りを行っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時に連携を取り合い、日々の様子や連絡等を伺っている。必要であれば会議に参加するなど連携を取っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在利用がないが、今後利用があった場合は密になって連絡を取っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		保護者からの情報以外にも、必要があれば、園での様子等聞き取りも検討していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在就労に移行した児童はいないが、今後継続的に支援が出来るよう情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園遊びの際、地域の児童との交流を安全に配慮しながら行っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時、連絡帳、電話等で情報共有が出来るよう努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		療育の観点から、伝え方や、お家でできる支援など求められれば伝えている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		実物を用いて口頭だけではなく目に見える形で説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者説明会は随時開催しており、療育についてなどの説明を行っている。	参加者がいない事から、気軽に参加できる環境を作る事で参加者を募る活動を積極的に行っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		速やかに職員間で共有し、解決に努めると共に、事案によっては手紙等で保護者に周知を行っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		お便りが現在作成できていない為、今後作成していく。
	35	個人情報に十分注意している	○		鍵付きの棚に保管し、施錠している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		必要があれば今後検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に1度消防局から職員を派遣してもらい、避難訓練を行い、年に2回引き渡し訓練等を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		担当者1名が研修を受け、他の職員に共有するなど、情報共有を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		保護者からの伝達は受けているが、医師とも必要に応じて連携をとっていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			